

愛媛県立しげのぶ特別支援学校 高等部 2年

花山星太

「拉致問題解決への一歩」

「私たちは、この問題を忘れてはならない」

それは、拉致被害者の家族の願いです。

拉致被害者を題材にしたDVD「めぐみ」を視聴しました。横田滋さんと早紀江さんがたくさんの方の力を借りて拉致問題を解決しようと街頭で精力的に活動している姿から、娘を取り戻すという強い思いを感じました。また、一方で、被害者の家族が、この問題が解決されず時間だけが過ぎ去っていく不安を抱えているとも思いました。

また、「めぐみへの手紙」という新聞記事も読みました。その中に、横田めぐみさんの御両親の「必ず日本に帰って、新しい写真撮ろうね」という言葉に胸が詰まる思いがしました。めぐみさんの父・滋さんが、四十年前に中学校の学生服を着ためぐみさんの写真を撮りましたが、めぐみさんはその年の冬に拉致されました。めぐみさんと一緒に日本で過ごしたいと強く願う親の気持ちが強く感じられました。

拉致問題は、我が国の国民的課題です。この解決には、国民一人ひとりがこの問題に関心を持ち、世論を高めて拉致問題の解決の必要性を国内外に訴えなければなりません。なぜなら、国民が拉致問題を重要視しなかったら、北朝鮮との交渉で拉致被害者を取り返すという日本の意思が弱いと北朝鮮に思われる可能性があるからです。

拉致問題に関心をもつということは、拉致被害者や被害者の家族が辛い思いをしていることに気付き、その人たちに寄り添うことです。私たちは、身近な人に同じような気付きや寄り添いができているでしょうか。もし、そうでなければ、遠いところにいる被害者の方に関心をもつことなどできません。

自分自身のことを振り返ると、近くにいる友人がその場でどんな手助けが必要かに気付いて、もっと手助けができるのではないかと反省することがあります。

私自身、拉致問題への関心をもっと高めたいと思っています。そのためには、まず、身近な人にもっと関心をもたなければなりません。私が学んでいる特別支援学校には、障がいのある人が身近にいます。その人たちがどんな願いを持ち、どんな生活をしたいか、また、どんな場面でどんな支援を必要としているかを考えてそれに気付くよう努めたいです。このことが、拉致被害者やその家族への関心を高めることにつながると思います。

また、毎日朝の会で行っている一分間スピーチで、拉致問題についても話すつもりです。そうすることで、私自身この問題への関心をより高められるし、周りの人たちにこの問題に関心をもってもらいやすくなります。

拉致問題の解決には、一人ひとりのこのような小さな取組が必要です。できることから少しずつ行動を起こしたいと思います。